

○安曇野暮らし支援協議会設置要綱

平成28年 3月18日 告示第104号

改正

平成29年 3月28日 告示第133号

平成31年 3月 5日 告示第90号

令和 4年 3月28日 告示第156号

令和 5年 3月30日 告示第116号

安曇野暮らし支援協議会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、市及び移住・定住促進に係る事業を実施する団体（以下「関連団体」という）との間における総合的な連携を図るため、安曇野暮らし支援協議会（以下「協議会という。」）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 協議会は、市及び関連団体が実施する次に掲げる事項について連絡及び調整を行うものとする。

- (1) 移住・定住の情報及び発信に関すること。
- (2) 移住・定住の受入れに関すること。
- (3) 移住・定住者の支援に関すること。
- (4) その他移住・定住に関すること。

(組織等)

第3条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる団体に属する者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 安曇野市商工会
- (2) 一般社団法人安曇野市観光協会
- (3) 公益社団法人長野県宅地建物取引業協会中信支部
- (4) 公益社団法人全日本不動産協会長野県本部
- (5) 公益社団法人長野県建築士会安曇野支部
- (6) あづみ農業協同組合
- (7) 特定非営利活動法人安曇野ふるさとづくり応援団
- (8) 松本公共職業安定所
- (9) 松本地域振興局
- (10) 前各号に掲げる者のほか、市長が特に必要と認める団体

3 委員の任期は、委嘱の日の属する年度の翌年度の3月31日までとし、再任を妨げない。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前3項にかかわらず、市長は、必要があると認めるときは、市職員の中から臨時の委員を任命することができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会)

第5条 協議会は、会長が招集し、その議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、協議会に関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(部会)

第6条 協議会に、必要に応じ部会を置くことができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、市民生活部移住定住推進課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

1 この告示は、平成28年3月18日から施行する。

2 この告示による最初の協議会は、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

附 則 (平成29年3月28日告示第133号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年3月5日告示第90号)

この告示は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和4年3月28日告示第156号)

この告示は、令和4年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年3月30日告示第116号)

この告示は、令和5年4月1日から施行する。

新旧対照表

安曇野暮らし支援協議会設置要綱（平成28年安曇野市告示第104号）の一部改正

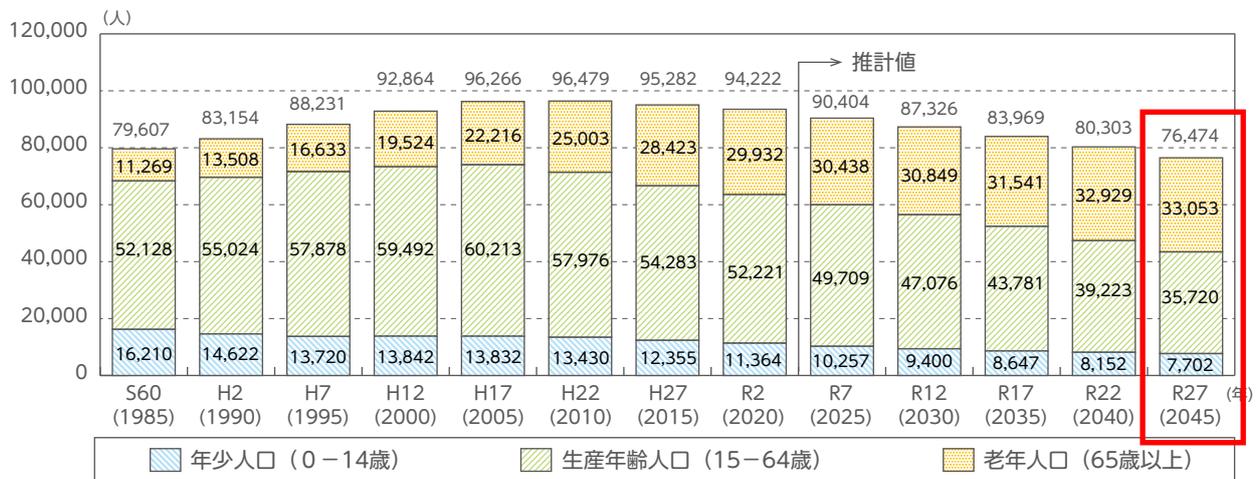
改正後	改正前
<p>(趣旨)</p> <p>第1条 この要綱は、市及び移住・定住促進に係る事業を実施する団体（以下「<u>関連団体</u>」<u>という</u>）の総合的な連携を図るため、安曇野暮らし支援協議会（以下「協議会という。」）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(所掌事務)</p> <p>第2条 協議会は、市及び関連団体が実施する次に掲げる事項について連絡及び調整を行うものとする。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 移住・定住の受入れに関すること。</p> <p>(3)・(4) (略)</p> <p>(組織等)</p> <p>第3条 (略)</p> <p>2 委員は、次に掲げる団体に属する者のうちから市長が委嘱する。</p> <p>(1)～(10) (略)</p> <p>3～5 (略)</p> <p>(庶務)</p> <p>第7条 協議会の庶務は、市民生活部<u>移住定住推進課</u>において処理する。</p>	<p>(趣旨)</p> <p>第1条 この要綱は、市及び安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる移住・定住促進に係る事業を実施する団体（以下「<u>関連団体</u>」）との間における総合的な連携を図るため、安曇野暮らし支援協議会（以下「協議会という。」）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(所掌事務)</p> <p>第2条 協議会は、市及び関連団体が実施する次に掲げる事項について連絡及び調整を行うものとする。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 移住・定住の受入に関すること。</p> <p>(3)・(4) (略)</p> <p>(組織等)</p> <p>第3条 (略)</p> <p>2 委員は、<u>次の各号</u>に掲げる団体に属する者のうちから市長が委嘱する。</p> <p>(1)～(10) (略)</p> <p>3～5 (略)</p> <p>(庶務)</p> <p>第7条 協議会の庶務は、市民生活部<u>移住定住促進課</u>において処理する。</p>

第2節 安曇野市の人口

本市の人口は、平成22（2010）年をピークに減少しており、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に準拠した推計によると、人口減少は今後も継続する見通しです。令和2（2020）年に94,222人であった本市の人口は、25年後の令和27（2045）年には約2割減少し、76,474人となることが見込まれています。

また、人口減少とともに高齢化も進行しています。総人口に占める65歳以上の老年人口の割合は令和2（2020）年には約3割であり、20年後の令和22（2040）年には4割を超える見通しです。

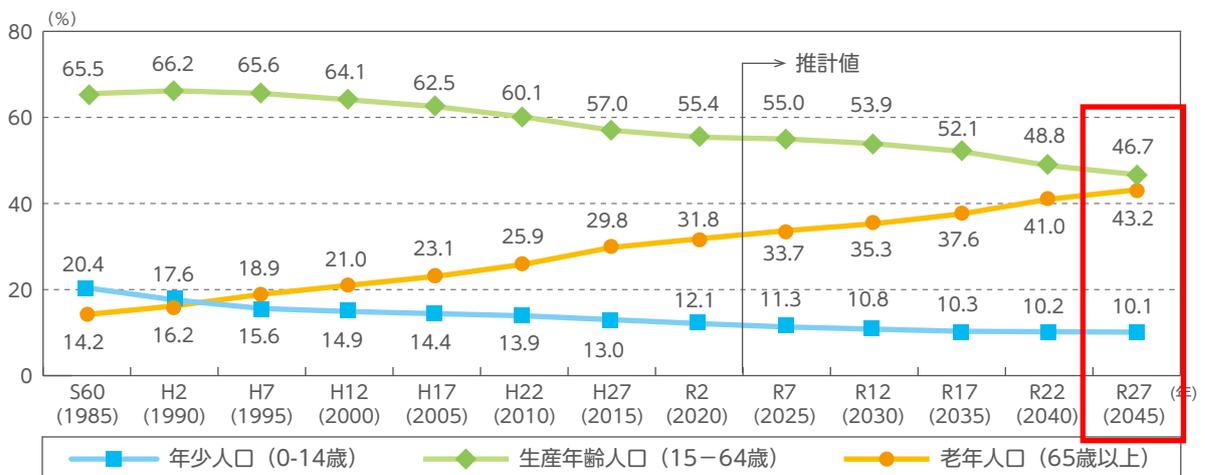
【図表 3】人口の推移



（資料）総務省「国勢調査」（推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」に準拠した国提供のワークシートに示された推計値）

（注）総人口には年齢不詳人口を含んでいることから、年齢3区分別人口の合計と総人口が一致しない。

【図表 4】人口構成比の推移（年齢3区分）



（資料）総務省「国勢調査」（推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」に準拠した国提供のワークシートに示された推計値）

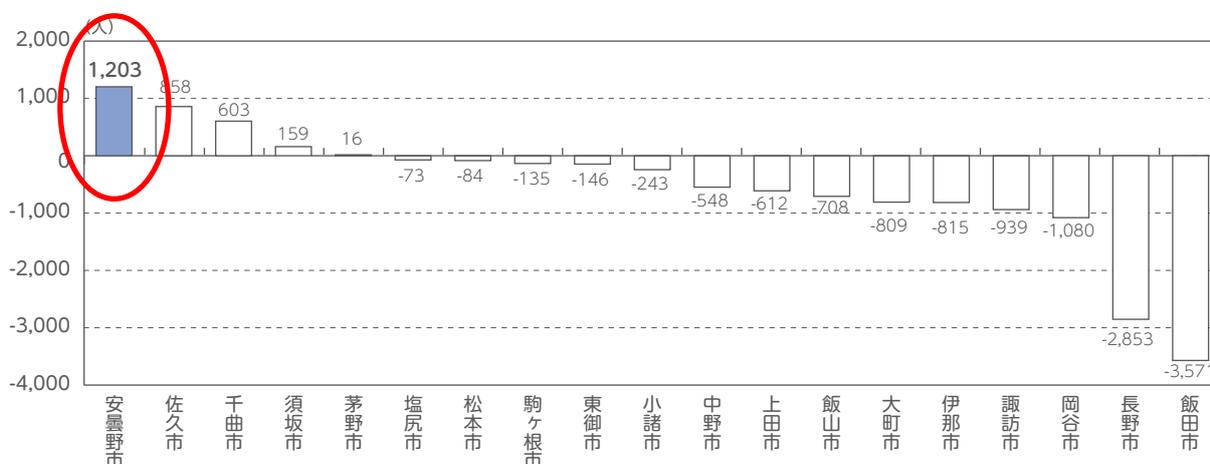
（注）年齢不詳人口があることから、年齢3区分別人口の合計が100%とならない。

人口の動きからみた本市の特徴として、転入超過数（転入者数と転出者数の差）の大きさが挙げられます。

本市では、平成29（2017）年から令和3（2021）年までの5年間における転入超過数が1,203人と、県内19市のうちで最も多くなっています。

また、転入超過数について年代別の内訳をみると、10歳未満及び30代が多く、子育て世帯の転入の多さが特徴です。

【図表 5】 県内19市の転入超過数（平成29年 - 令和3年）



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」
(注) 平成29年までは日本人のみ、平成30年以降は外国人を含む移動者数。

【図表 6】 年代別転入超過数（平成29年 - 令和3年）



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」
(注) 平成29年までは日本人のみ、平成30年以降は外国人を含む移動者数。

第1節 計画期間

第2次安曇野市総合計画 後期基本計画の計画期間は令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間とします。

第2節 目標人口

平成27（2015）年に策定し、その後令和2（2020）年に改訂した「安曇野市人口ビジョン」では、将来にわたって持続するまちを実現するため、令和7（2025）年度から令和27（2045）年度までの目標人口を5年間隔で設定しました。

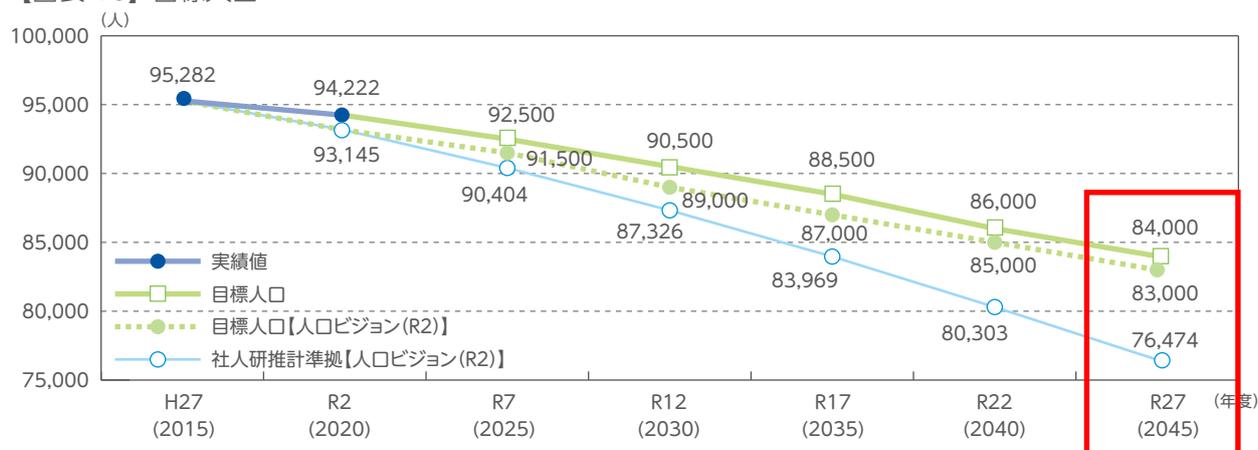
また、人口減少を和らげつつ、人口減少に適応した地域をつくっていくために安曇野市人口ビジョンの改訂と同年に策定した「第2期安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、令和22（2040）年度 85,000人を目標人口としています。

この目標人口は、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に準拠した推計（社人研推計準拠）を基準とし、合計特殊出生率の向上や子育て世帯の移住受入拡大により人口減少を抑制することが前提条件となっており、本市では「第2期安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、出産・子育て支援や新たな雇用の創出、移住定住の促進、関係人口拡大などの施策・事業を展開してきました。

令和2（2020）年度の人口は94,222人となっており、社人研推計準拠を大きく上回っています。また、同年度の目標人口の設定はありませんが、令和7（2025）年度以降の目標人口を達成するためのペースを800人程度上回っています。

このことを踏まえ、令和2（2020）年度の人口および人口ビジョンに示された目標人口達成のための合計特殊出生率・子育て世帯の移住受入に関する前提条件から改めて将来の人口を推計し、この結果をもとに、**人口ビジョンで定めた目標人口を上方修正したものとして、新たに令和22（2040）年度の目標人口を86,000人と設定します。**

【図表 16】 目標人口



（資料）総務省「国勢調査」、安曇野市「安曇野市人口ビジョン[第2版]」（「社人研推計準拠」は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」に準拠した国提供のワークシートに示された推計値）

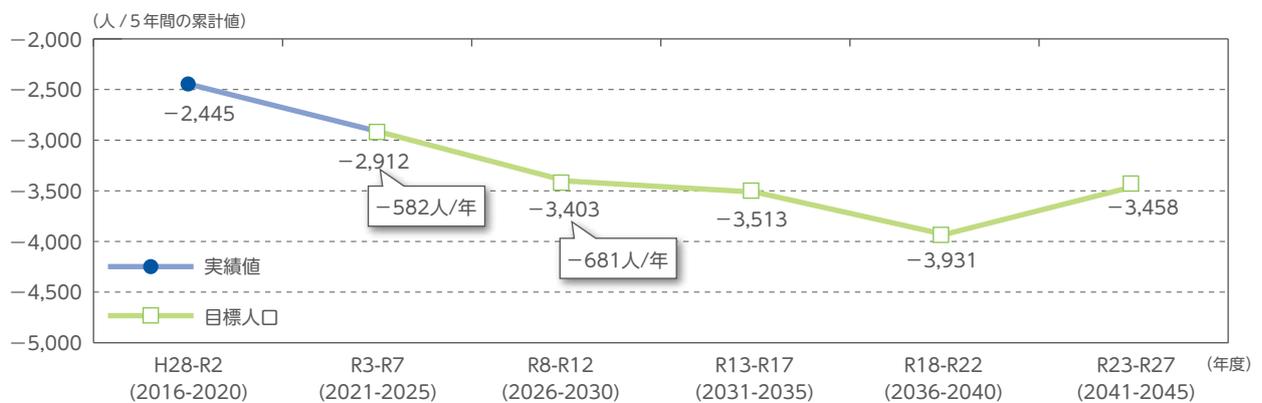
（注）目標人口は、令和2年度の人口と安曇野市人口ビジョン[第2版]に示された目標人口達成のための条件（合計特殊出生率・子育て世帯の移住受入）から得られた推計結果をもとに設定。

目標人口を達成するためには、合計特殊出生率の向上による自然増減数のマイナス幅の抑制や、子育て世帯の移住受入拡大による社会増減の改善が必要です。

自然増減については、令和5（2023）年度から令和7（2025）年度にかけては、自然増減を年間−582人に抑制することを目標とします。また、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度では、年間−681人を目標とします。

社会増減については、令和5（2023）年度から令和7（2025）年度にかけては、年間233人の社会増を目標とします。また、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度では、年間263人の社会増を目標とします。

【図表 17】 自然増減（総合戦略数値目標）

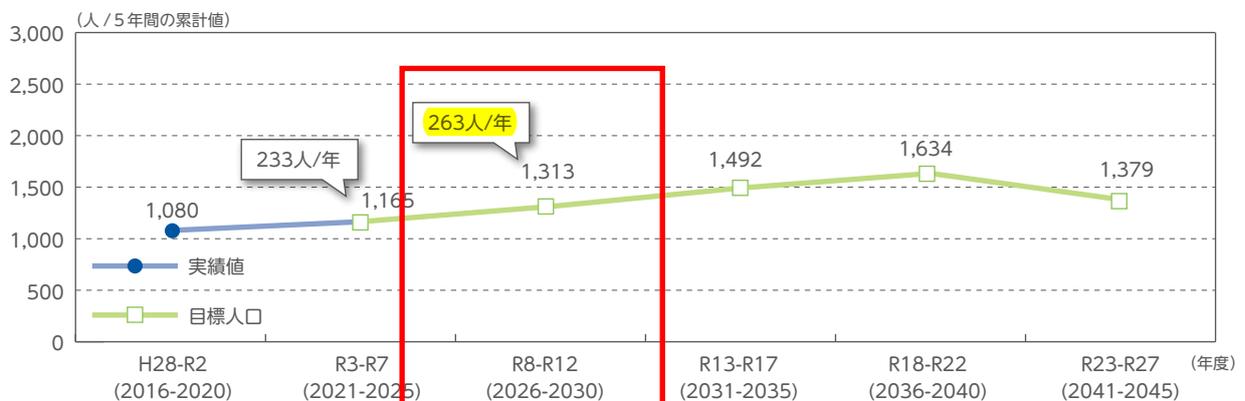


(資料) 総務省「国勢調査」、長野県「毎月人口異動調査」、安曇野市「安曇野市人口ビジョン[第2版]」（「社人研推計準拠」は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」に準拠した国提供のワークシートに示された推計値）

(注) 実績値は長野県「毎月人口異動調査」による。

目標人口の値は、令和2年度の人口と安曇野市人口ビジョン[第2版]に示された目標人口達成のための条件（合計特殊出生率・子育て世帯の移住受入）から推計。

【図表 18】 社会増減（総合戦略数値目標）



(資料) 総務省「国勢調査」、長野県「毎月人口異動調査」、安曇野市「安曇野市人口ビジョン[第2版]」（「社人研推計準拠」は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」に準拠した国提供のワークシートに示された推計値）

(注) 実績値は長野県「毎月人口異動調査」による。（「記載・消除」を含む。）

目標人口の値は、令和2年度の人口と安曇野市人口ビジョン[第2版]に示された目標人口達成のための条件（合計特殊出生率・子育て世帯の移住受入）から推計。

4-10 移住・定住の推進

住んでみたい、住んでよかったまちを目指し、安曇野市の魅力を市内外に戦略的に発信するとともに、移住相談体制を充実させ、移住・定住を推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○人口減少・少子高齢化の進展</p> <p>国の機関の推計によると、人口減少・少子高齢化は今後も進む見通しであり、人口減少を抑制するためには、自然増減と社会増減の両面での改善が必要です。</p> <p>また、市内を地域別（区ごと）に見た場合は、人口減少や高齢化が特に進んでいる地域があり、地域の伝統や文化をいかに継承していくかが課題となっています。</p>	<p>○移住促進のためのプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部でのセミナーやオンラインセミナーの開催、市内での移住体験会を開催し、移住者の増加を図ります。 ・市内の子育て環境を体験する機会などを設け、子育て世帯の移住を促進します。 ・市内のゲストハウスやシェアハウス、宿泊施設などとの連携により、安曇野での生活を体験できる機会を創出します。
<p>○地元に戻らない若者が多い</p> <p>本市は、毎年、転入者数が転出者数を上回る傾向が続いています。</p> <p>しかし、10代後半～20代前半の転入・転出の動きは、転出者数が転入者数を大幅に上回っており、就職を機に転出する方が多いことに加え、進学をきっかけに転出した方の多くが、卒業後も市外での生活を選んでいることがうかがえます。</p>	<p>○若者の地元回帰を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の若年層を対象に、ふるさとの魅力の理解や愛着（シビックプライド）を醸成する教育、プロモーションの推進により、地元への定着・回帰を促進します。 ・テレワークなどを活用する「転職なき移住」を支援し、若年層や働き盛り世代のUIターンを促進します。
<p>○移住相談は多種多様</p> <p>移住に関する相談は、移住前の不安を解消するとともに、移住後のミスマッチを防ぐためにも重要です。</p> <p>また、移住に関する相談内容は、しごとや住まい、生活環境などに留まらず、多岐にわたります。また、移住後の人間関係を不安視する方は少なくありません。このため、地域のコミュニティである区の情報や、移住後の人的なつながりづくりの支援が求められています。</p>	<p>○きめ細かな移住相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩移住者や民間団体との連携により、移住相談にきめ細かに対応するための体制を構築します。 ・オンラインツールの活用により、遠方にお住いの移住検討者でも、気軽に相談しやすい仕組みづくりを進めます。 ・移住者同士の交流の機会を提供し、人的なつながりを創出することで、定住・定着を図ります。



注目

移住・定住の推進には、多数の施策が関連しています。

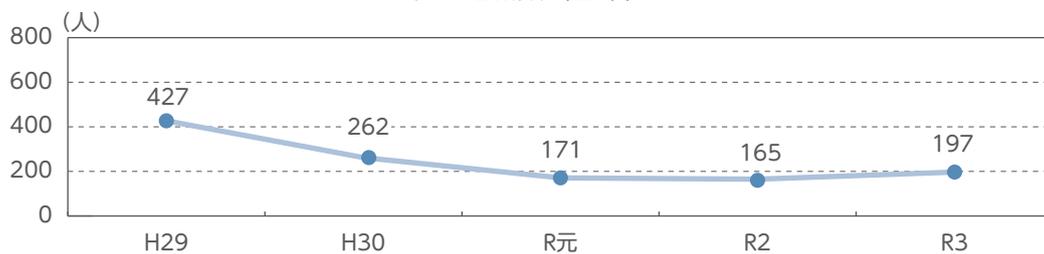
- (しごと) 移住者と企業とのマッチングや移住者の起業を支援
- (農業) 半農半Xなどの多様な就農スタイルを提案
- (住環境) 豊かな自然や良好な景観の保全、公園の整備
- (子育て) 子育て支援の充実やあづみの自然保育の魅力発信
- (空き家) 空き家や農地付き空き家の活用を促進
- (地域) 移住検討者に対し、市内各地域の個性を集約・発信

指標・目標値

指標項目 (単位)	R4現状値	R9目標値	備考
【戦略】安曇野市に住みたいと思う市民の割合 (%)	78.6	76.0	総合戦略数値目標 総合戦略策定時：75.9% (R元)
【戦略】移住支援による移住者数 (人)	42 (R3)	475	総合戦略KPI 令和5～9年度の累計値
移住セミナー等参加者数 (人)	52 (R3)	1,500	令和5～9年度の累計値

関連するデータ

社会増減数 (歴年)



(資料) 長野県「毎月人口月異動調査」

トピックス

平成29年から令和3年までの5年間の転入超過数は1,203人で、県内19市中第1位

総務省「住民基本台帳人口移動報告」

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、 安曇野	<ul style="list-style-type: none">・移住検討者へ市の魅力を積極的に発信します。・市内高校生などに対し、安曇野の魅力を知り、愛着を深めてもらうためのシティプロモーションを行います。
AZUMINOブランド の発信	<ul style="list-style-type: none">・移住のPRにあたり、安曇野が有する観光や農産物、水といった魅力を積極的に活用します。
アウトドア・スポーツ の聖地	<ul style="list-style-type: none">・アウトドア・スポーツ環境を全面的に発信することで、安曇野市の魅力を伝えるきっかけとし、移住者の増加を図ります。





第1章

第2章

第3章

目標1

目標2

目標3

目標4

目標5

目標6

life in Azumino city

信州安曇野移住ガイド



信州安曇野移住ガイド

What is Azumino?

安曇野市はこんなまち

北アルプスの麓・田園風景が広がるまち。四季折々の自然と人々の暮らしが調和した移住地としても人気の高い地域です。



まち DATA

人口 **94,222** 人 県内6位

世帯 **40,619** 世帯

面積 **331,78** km² 県内9位

日本人: 39,670 世帯
外国人住民: 574 世帯
日本人+外国人の混合世帯: 375 世帯

※人口: R2 国勢調査 世帯: 住民基本台帳 / R3.12 現在



5年間の転入者 **1,203** 人

※H29~R3

信州安曇野移住ガイドより

「いいとこどり」の豊かな暮らし

3,000m級の北アルプスが一望できる景観の美しさに加え、生活の利便性もある「こちよひ田舎暮らし」が魅力です。



通勤圏である松本市の中心市街地には車で約30分、長野市には高速道路で約1時間とアクセスも良好。

地域ごとにあるスーパーマーケットのほか、旬の食材がリーズナブルな価格で手に入る農産物直売所が点在。

信州安曇野移住ガイドより



あづみの移住推進大使 篠原 信一さん

(4)市町村別の人口動態 3町4村で人口増加、19市20町31村で人口減少

- ・人口増加数が最も多いのは軽井沢町(278人) 人口増加率が最も高いのは白馬村(3.19%)
- ・人口減少数が最も多いのは長野市(△2,883人) 人口減少率が最も高いのは王滝村(△4.49%)
- ・自然減少数が最も少ないのは平谷村及び生坂村(△4人) 自然減少率が最も低いのは南箕輪村(△0.09%) 【全市町村が自然減】
- ・社会増加数が最も多いのは松本市(742人) 社会増加率が最も高いのは白馬村(3.87%)

2022年中の市町村別異動状況等

市町村	2022年1月1日	2023年1月1日	人口増減数	自然増減数		社会増減数				人口増減率	自然増減率	社会増減率	
	現在総人口	現在総人口		出生	死亡	増減数	転入	転出	その他増減数				
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(%)	(%)	
県計	2,029,541	2,016,467	△ 13,074	△ 16,186	12,274	28,460	3,112	41,283	37,694	△ 477	△ 0.64	△ 0.80	0.15
長野市	370,081	367,198	△ 2,883	△ 2,361	2,402	4,763	△ 522	10,881	11,334	△ 69	△ 0.78	△ 0.64	△ 0.14
松本市	239,862	239,342	△ 520	△ 1,262	1,651	2,913	① 742	10,075	9,246	△ 87	△ 0.22	△ 0.53	0.31
上田市	152,944	151,836	△ 1,108	△ 1,126	958	2,084	18	4,854	4,696	△ 140	△ 0.72	△ 0.74	0.01
岡谷市	46,930	46,524	△ 406	△ 447	263	710	41	1,518	1,477	0	△ 0.87	△ 0.95	0.09
飯田市	96,838	95,724	△ 1,114	△ 777	650	1,427	△ 337	3,114	3,426	△ 25	△ 1.15	△ 0.80	△ 0.35
諏訪市	48,113	47,862	△ 251	△ 323	313	636	72	2,158	2,060	△ 26	△ 0.52	△ 0.67	0.15
須坂市	49,262	48,978	△ 284	△ 429	280	709	145	1,696	1,557	6	△ 0.58	△ 0.87	0.29
小諸市	40,788	40,645	△ 143	△ 310	268	578	167	1,791	1,646	22	△ 0.35	△ 0.76	0.41
伊那市	65,376	64,868	△ 508	△ 516	375	891	8	2,374	2,327	△ 39	△ 0.78	△ 0.79	0.01
駒ヶ根市	31,942	31,650	△ 292	△ 306	201	507	14	1,200	1,176	△ 10	△ 0.91	△ 0.96	0.04
中野市	41,755	41,309	△ 446	△ 357	218	575	△ 89	1,310	1,414	15	△ 1.07	△ 0.85	△ 0.21
大町市	25,550	25,212	△ 338	△ 311	112	423	△ 27	992	1,018	△ 1	△ 1.32	△ 1.22	△ 0.11
飯山市	19,194	18,839	△ 355	△ 258	81	339	△ 97	537	632	△ 2	△ 1.85	△ 1.34	△ 0.51
茅野市	56,116	55,657	△ 459	△ 403	299	702	△ 56	2,132	2,165	△ 23	△ 0.82	△ 0.72	△ 0.10
塩尻市	66,787	66,578	△ 209	△ 422	429	851	213	2,714	2,507	6	△ 0.31	△ 0.63	0.32
佐久市	97,918	97,671	△ 247	△ 670	651	1,321	③ 423	3,921	3,511	13	△ 0.25	△ 0.68	0.43
千曲市	58,508	58,202	△ 306	△ 534	369	903	③ 228	1,808	1,578	△ 2	△ 0.52	△ 0.91	0.39
東御市	29,801	29,662	△ 139	△ 185	173	358	46	974	912	△ 16	△ 0.47	△ 0.62	0.15
安曇野市	93,690	93,534	△ 156	△ 730	525	1,255	② 574	3,409	2,879	44	△ 0.17	△ 0.78	0.61
市計	1,631,455	1,621,291	△ 10,164	△ 11,727	10,218	21,945	1,563	57,458	55,561	△ 334	△ 0.62	△ 0.72	0.10
南佐久郡	22,654	22,369	△ 285	△ 296	110	406	11	2,243	2,156	△ 76	△ 1.26	△ 1.31	0.05
小海町	4,228	4,143	△ 85	△ 72	14	86	△ 13	233	243	△ 3	△ 2.01	△ 1.70	△ 0.31
佐久穂町	10,063	9,949	△ 114	△ 126	49	175	12	279	266	△ 1	△ 1.13	△ 1.25	0.12
川上村	3,734	3,694	△ 40	△ 34	21	55	△ 6	1,046	998	△ 54	△ 1.07	△ 0.91	△ 0.16
南牧村	2,987	2,959	△ 28	△ 39	20	59	11	575	547	△ 17	△ 0.94	△ 1.31	0.37
南相木村	931	928	△ 3	△ 10	3	13	7	58	50	△ 1	△ 0.32	△ 1.07	0.75
北相木村	711	696	△ 15	△ 15	3	18	0	52	52	0	△ 2.11	△ 2.11	0.00
北佐久郡	41,625	41,952	327	△ 339	227	566	666	3,115	2,443	△ 6	0.79	△ 0.81	1.60
軽井沢町	19,428	19,706	278	△ 199	85	284	477	1,834	1,344	△ 13	1.43	△ 1.02	2.46
御代田町	15,710	15,885	175	△ 65	109	174	240	1,066	835	9	1.11	△ 0.41	1.53
立科町	6,487	6,361	△ 126	△ 75	33	108	△ 51	215	264	△ 2	△ 1.94	△ 1.16	△ 0.79
小県郡	9,593	9,463	△ 130	△ 139	54	193	9	274	266	1	△ 1.36	△ 1.45	0.09
長和町	5,516	5,439	△ 77	△ 89	29	118	12	167	156	1	△ 1.40	△ 1.61	0.22
青木村	4,077	4,024	△ 53	△ 50	25	75	△ 3	107	110	0	△ 1.30	△ 1.23	△ 0.07
諏訪郡	40,536	40,234	△ 302	△ 436	192	628	134	1,557	1,405	△ 18	△ 0.75	△ 1.08	0.33
下諏訪町	18,853	18,629	△ 224	△ 219	93	312	△ 5	626	628	△ 3	△ 1.19	△ 1.16	△ 0.03
富士見町	14,015	13,915	△ 100	△ 144	58	202	44	556	499	△ 13	△ 0.71	△ 1.03	0.31
原村	7,668	7,690	22	△ 73	41	114	95	375	278	△ 2	0.29	△ 0.95	1.24
上伊那郡	81,053	80,651	△ 402	△ 621	487	1,108	219	3,236	2,983	△ 34	△ 0.50	△ 0.77	0.27
辰野町	18,234	17,982	△ 252	△ 243	82	325	△ 9	567	573	△ 3	△ 1.38	△ 1.33	△ 0.05
箕輪町	24,806	24,785	△ 21	△ 175	138	313	154	996	829	△ 13	△ 0.08	△ 0.71	0.62
飯島町	8,949	8,763	△ 186	△ 113	40	153	△ 73	312	387	2	△ 2.08	△ 1.26	△ 0.82
南箕輪村	15,955	16,133	178	△ 14	143	157	192	898	707	1	1.12	△ 0.09	1.20
中川村	4,587	4,534	△ 53	△ 36	26	62	△ 17	126	131	△ 12	△ 1.16	△ 0.78	△ 0.37
宮田村	8,522	8,454	△ 68	△ 40	58	98	△ 28	337	356	△ 9	△ 0.80	△ 0.47	△ 0.33

・市の移住施策について

安曇野市では、令和4年4月に移住定住推進課が新設され、移住関連施策を実施しています。

主な施策（R4）	概要	実施回数	参加者
移住セミナー （オンライン開催）	全般的な市の魅力、生活の様子、移住体験談などを伝えるセミナー。テーマを決めて開催する。	8回	225人
移住セミナー （首都圏開催）	同上	3回	40人
県主催移住セミナー への参加	長野県や松本地域振興局が主催するセミナーへの参加。希望を出した市町村が集まる。	5回	130人
移住交流ツアー	市内を回る1泊2日のツアー。気候はもちろん、各スポットの説明や地域住民との交流を通じ移住を体験できる。初日には移住セミナーも組み込む。	2回	28人
フェア・出展	回帰支援センター（※1）やJOIN（※2）、長野県などが主催する移住フェアにブース出展を行う。	3回	76人
出張個別相談	回帰支援センターや県の関連施設などで個別相談を受ける。県の関連施設は、名古屋事務所・大阪事務所・銀座NAGANO※3）	1回	7人
おためし住宅	一定期間市の気候や風土に触れながら生活体験できる機会を提供する。利用料は無料。最大6泊7日まで利用可。		135人

※1 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター【東京・有楽町】

地方移住に関するパンフレットや資料を常設し、各地域の相談員が移住を希望する方に、より具体的な地方暮らしの情報を提供する移住相談センター。東京・大阪に拠点を置く。

※2 （一社）移住交流推進機構（JOIN）【東京・日本橋】

移住に関するトレンド情報の配信や企業と自治体のコラボレーションの推進といった事業を通じて、都市から地方への移住や都市と農山漁村地域の交流を推進する組織

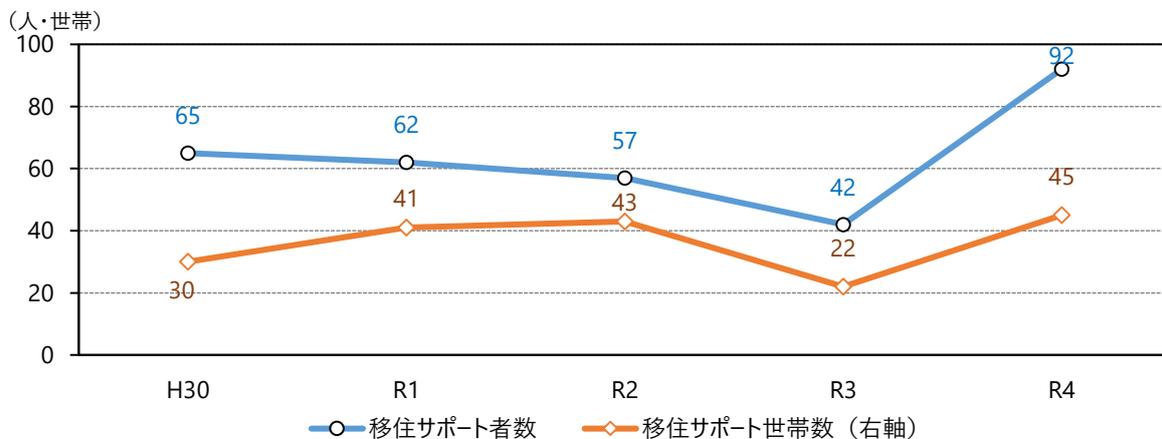
※3 銀座NAGANO【東京・銀座】

信州の魅力をもろごと共有（シェア）するオール信州活動拠点「銀座NAGANO～しあわせ信州シェアスペース～」2階・5階がイベント等で利用できる。

1階はショップスペースで、信州を代表する食材や加工品など、信州の暮らしを感じることができる様々な商品が並ぶ。2階はキッチンも備え付けられたイベントスペースで、料理を振る舞うイベントも可能。5階の移住交流・就職相談コーナーは、信州回帰を促進するための拠点として、令和3年の10月に新設された。

・行政移住サポート者数

行政移住サポート者数とは、相談会、移住交流ツアー、おためし住宅などにより、安曇野市へ移住した人数です。毎年2回、県に報告をしています。



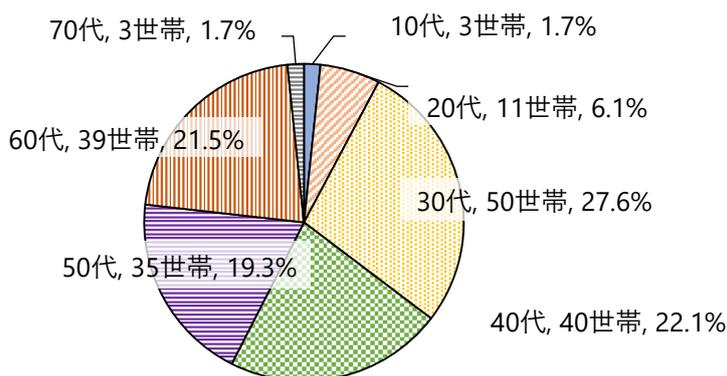
(資料) 県報告 行政移住サポート者数 (注) 各サポートを重複して受けた者、世帯は除外しています

令和4年度は利用停止期間があったが、大幅に人数が増えた。

理由として考えられるのは、新型コロナウイルス感染症により地方への移住が注目され始め、それが落ち着き始めたことにより、県外との往来も活発になってきたことや、移住イベント実施・参加回数が増加したことによるものと思われる。

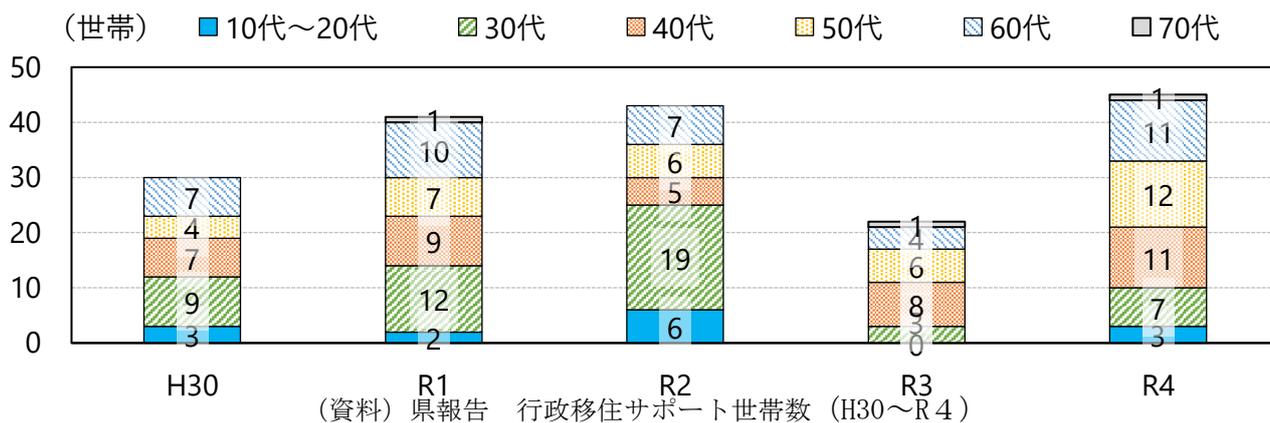
また、移住希望者は全般的な相談のみとは限らず、子育てや創業など専門的な相談をする場合もある。これまでは、相談件数は移住相談窓口のみ計上していたが、全庁で移住のサポートに努めた結果、移住サポート者数の増加につながった。

行政移住サポート世帯の年代

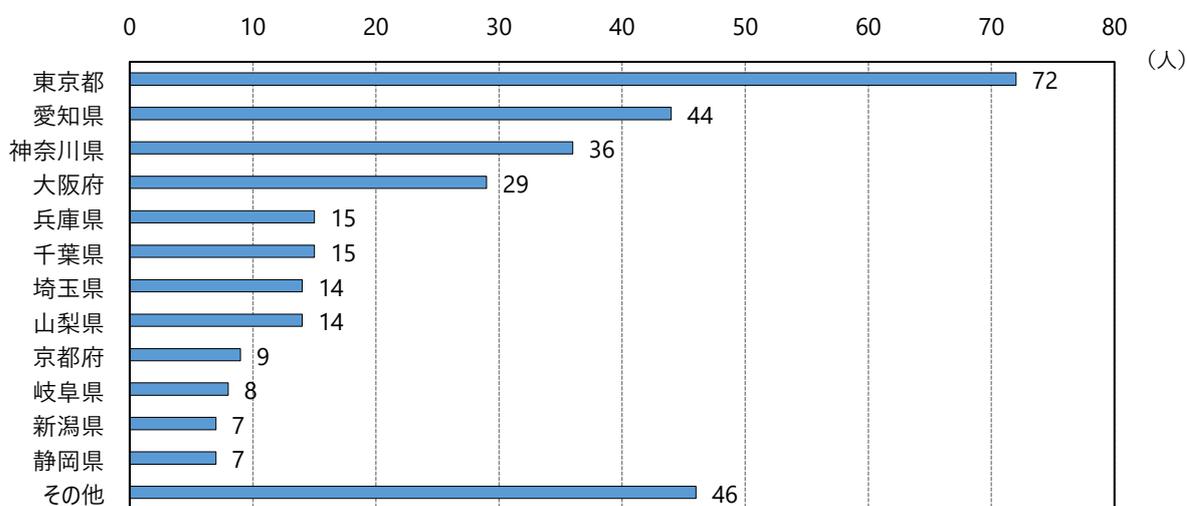


(資料) 県報告 行政移住サポート世帯数 (H30~R4)

行政移住サポート世帯の年代をみると、30代が27.6%と最も大きく、次いで40代が22.1%、60代が21.5%と続く。令和4年度は若者をターゲットに「アウトドア」や「子育て」などテーマとしたセミナーを実施したが、今後もこの年代のサポート世帯数を増加させるため、若者・子育て世代をテーマとした企画を継続する。



行政移住サポート者 転入前の居住地

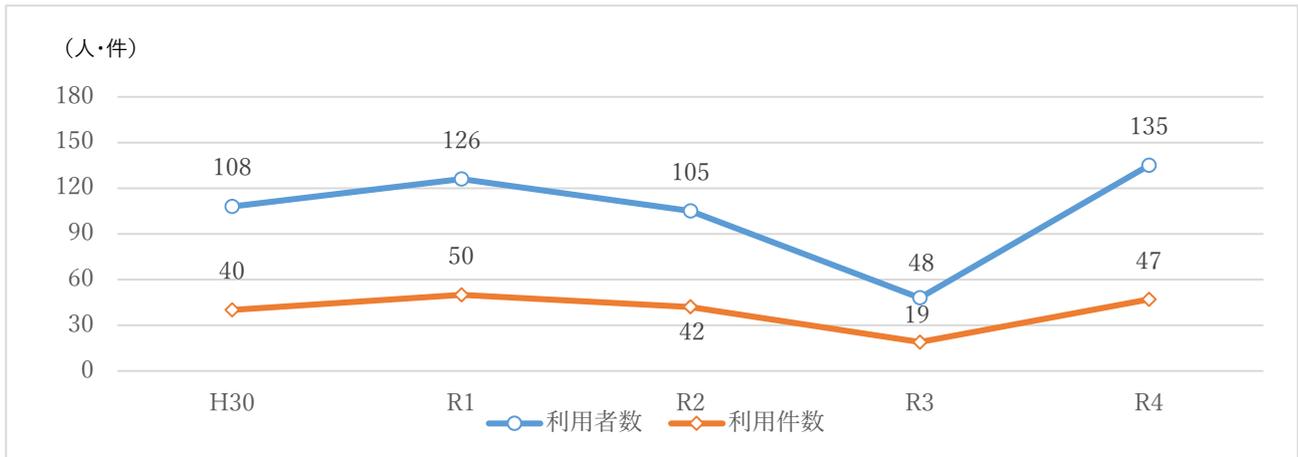


移住者の転入前の居住地をみると、東京都が72人と最も多く、次いで愛知県が44人、神奈川県が36人と続く。

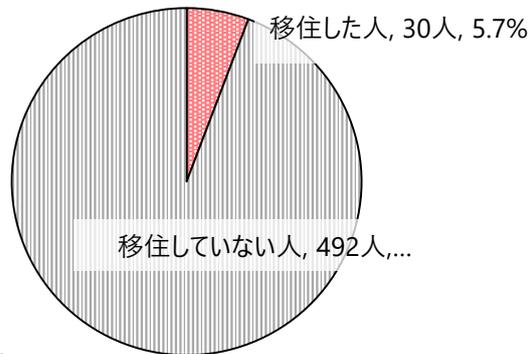
首都圏の人口が多いということもあるが、アクセスのよさも影響していると推測される。大阪府や兵庫県からの移住者も比較的多いため、関西圏でのセミナーを実施する。

おためし住宅 実績

【利用実績】



【安曇野市へ移住した人の割合】



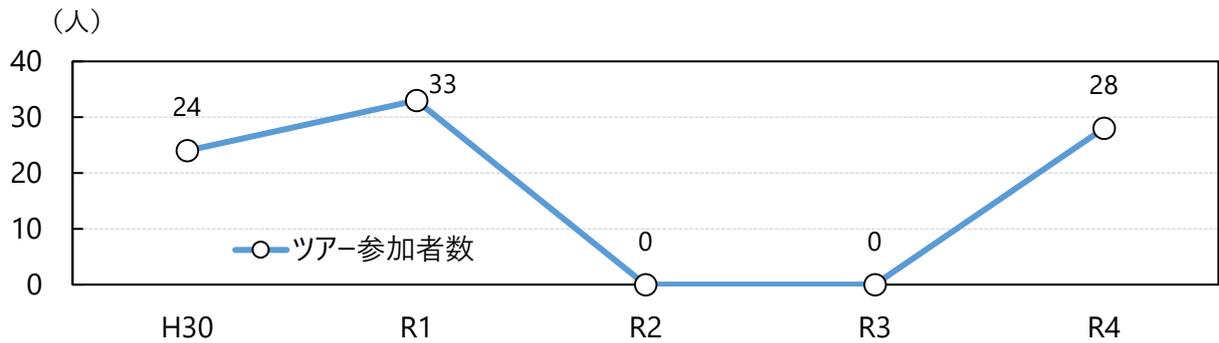
(資料) 安曇野市

(注) サポート者がその年度に移住するとは限らないため、あくまでも参考値。

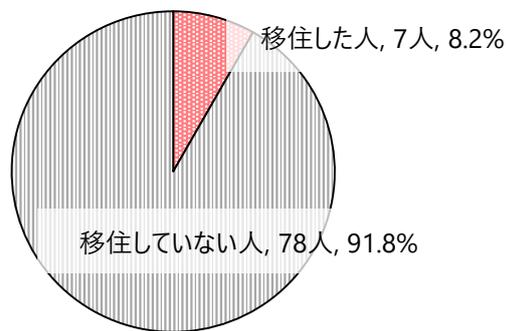
令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用者数は低調に推移していたが、令和4年度は利用者数が増加した。一方、これまでの実績では、利用者が移住した割合は6%であり、課題の精査が必要となる。

移住交流ツアー 実績

【利用実績】



【安曇野市へ移住した人の割合】



(資料) 安曇野市

(注) サポート者がその年度に移住するとは限らないため、あくまでも参考値。

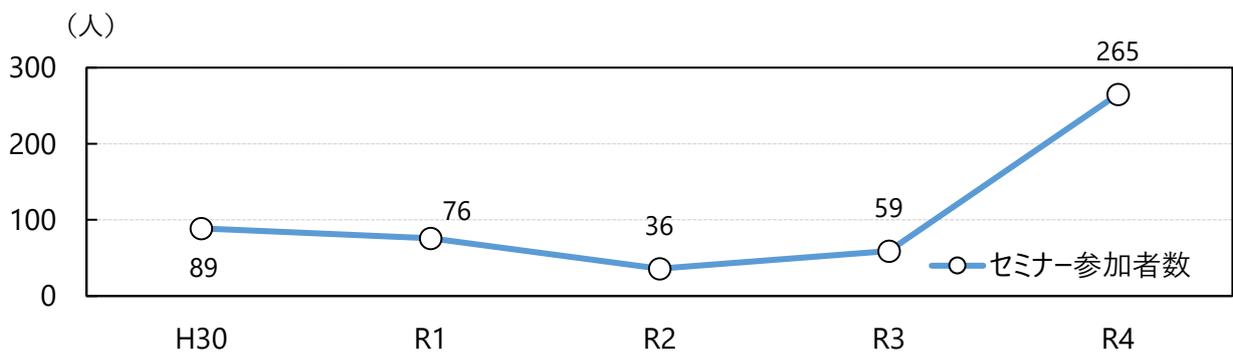
令和2年度～令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大によりツアーは中止した。

移住者体験談を含めたセミナーや、地元住民・移住者との交流会が好評であることから、今後は、交流の機会を増やしたツアーとしたい。

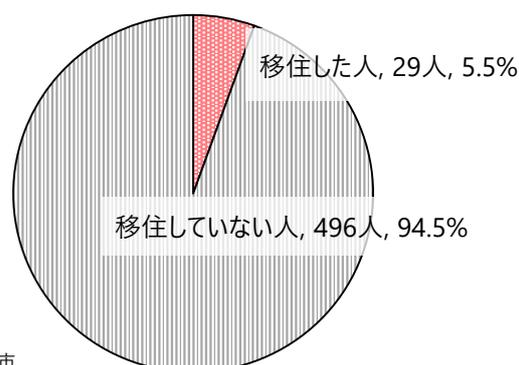
令和5年度は、空き家の利活用に関心がある人を対象にしたツアーや、子育て世代を対象とした認定こども園での自然保育体験を取り入れたツアーを計画している。

セミナー 実績

【利用実績】



【安曇野市へ移住した人の割合】



(資料) 安曇野市

(注) サポート者がその年度に移住するとは限らないため、あくまでも参考値。

セミナーは、オンライン・市主催・県主催のものを含む。この内、オンラインセミナー参加者が265人中225人と、ほとんどの割合を占める。(※人数は延べ人数)
 新型コロナ対応の見直し後もオンラインの有効活用を図る。

・その他移住者が活用できる補助金を受けた人数

(1) 空き家関連補助金

● 安曇野市移住等空家改修利活用促進事業補助金

市外から移住(転入)した方が空き家バンクから購入などした物件を改修した場合、対象経費に補助金を交付する。(上限あり)

● 安曇野市空き家バンク活用促進支援事業補助金

市外から移住(転入)した方が物件を空き家バンクから購入などして、これから仲介手数料の支払いや引っ越しを行う場合、その経費に補助金を交付する。(上限あり)

令和4年度の空き家補助金交付確定数(県外移住のみ)	3人(※)
---------------------------	-------

※令和3年度に移住した人数を含む

(2) 移住支援金

● 安曇野市U I J ターン就業・創業移住支援事業補助金

東京圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)、愛知県、大阪府から安曇野市へ移住し、就業または創業した方のうち、一定の要件を満たした方に補助金を交付する。

令和4年度の移住支援金交付確定数	7人(※)
------------------	-------

※令和3年度に移住した人数を含む

令和4年度 事業報告

(1) 安曇野暮らしセミナー（オンライン）

回数	開催日時	テーマ	講師・ゲスト	参加者
1	R4.6.28（火） 19時～	安曇野の魅力	暮らし支援協議会 （横田委員・北林委員）	27組 42人
2	R4.8.11（木・祝） 14時～	山のある暮らし	暮らし支援協議会（横田委員） 2拠点生活者	15組 18人
3	R4.9.8（木） 19時～	空き家・住まい	暮らし支援協議会 （醍醐委員・中嶋委員） 移住定住推進課	27組 38人
4	R4.11.3（木・祝） 14時～	保育・就学	こども園幼稚園課 子ども家庭支援課 学校教育課	14組 24人
5 東京	R4.12.13（火） 13時30分～	地域コミュニティ （※）	地域づくり課	10組 14人 （OLのみ）
6	R5.1.12（木） 14時～	就職・創業支援 職員募集	商工労政課 移住支援金活用者 職員課 松本公共職業安定所 （担当者・OL）	19組 26人
7	R5.2.14（火） 13時半～	おためし住宅	おためし住宅業務委託先業者 おためし住宅利用者	27組 33人
8	R5.3.17（金） 14時～	農ある暮らし 農地付き空き家	農政課 移住定住推進課	27組 30人

※第5回は現地セミナーとハイブリッド

R4 合計参加者	166組 225人
<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で人混みを避けたい方でも移住に関わる情報が得られるよう、テーマを変え、定期的に開催した。 ・参加者は延べ人数のため、複数のセミナーに参加した方はその分カウントした。 ・当初は、リアルタイムでの実施のため、多くの方が見られるよう祝日や平日夜に開催したが、仕事の都合などで見られない場合も想定されることから、第5回からは平日の午後に開催したセミナーを録画し、見逃し配信を行った。見逃し配信の視聴者は全体の約7～8割であり、一定の需要が確認できた。 ・参加者からのアンケートでは、「実情が分かった」などの意見がある一方で、「基本的な情報が多く、少し物足りない」、「夫婦や子育て世帯だけではないことを考慮してほしい」といった意見があった。年齢層や参加者の属性などを考慮しつつ、課題となっている若年世代・子育て世代の移住促進に引き続き取り組む。 	

(2) 安曇野暮らしセミナー

回数	開催日時	テーマ	講師・ゲスト	参加者
1 東京	R4.10.7 (金) 13時半～	アウトドア 自然保育 空き家の実情	子ども家庭支援課 移住定住推進課	6組11人
	R4.10.8 (土) 10時～	アウトドア 自然保育 空き家の実情	あづみの移住大使 (篠原氏) 子ども家庭支援課 移住定住推進課	6組8人
2 東京	R4.12.13 (火) 13時30分～	地域コミュニティ (※)	地域づくり課	6組8人 (現地のみ)
3 東京	R5.3.11 (土) 13時半～	安曇野暮らし アウトドア クラフトビール グループトーク	あづみの移住大使 (篠原氏) 安曇野ブルワリー (移住者)	11組13人

※第2回はオンラインセミナーとハイブリッド

R4 合計参加者	29組40人
<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナが浸透してきたため、令和2年にオープンした銀座 NAGANO 5階 (移住・交流コーナー) を活用し、東京で現地セミナーを実施した。 ・あづみの移住大使である篠原信一氏が出演し、アウトドアをテーマに講演を行った。 ・セミナー参加者は10人前後であり、安曇野への移住を具体的に検討している層が中心となった。 ・参加者アンケートでは、オンラインにはない対話形式のメリットを挙げる人が複数おり、講師や相談員をより身近に感じてコミュニケーションが取れたと考えられる。 ・今後もターゲットを意識し、安曇野市への訪問につなげるなど、参加者が次のステップに進むことを目指したセミナーとしたい。 	

(3) 移住交流ツアー

回数	開催日時	内容	出席者	参加者
1	R4.11.26 (土) ~ R4.11.27 (日)	・国営公園トレッキング ・こども園、図書館等見学 ・小倉地域 (区) との交流会	暮らし支援協議会 (横田委員) 観光協会 (北林委員) 小倉地区区長・相談役計8人 移住者2組	7組12人
2	R5.2.4 (土) ~ R5.2.5 (日)	・国営公園スノーシュー ・こども園、中学校見学 ・地域コミュニティ、不動産セミナー、交流会	暮らし支援協議会 (横田・醍醐委員) 観光協会 (スタッフ) 移住者2組 (市職員)	9組16人 (うち未満児 1人)

R4 合計参加者	16 組 28 人
【総括】 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、若年層を主なターゲットに安曇野のアウトドアをプログラムに入れた。 ・加えて、こども園・学校・図書館の見学、地域コミュニティの交流会・セミナーも両ツアーに取り入れた。 ・参加者の年代は、若年層も一定数いたが、多くが 50 代以上であった。このことから、来年度は、募集時から「子育て」といったテーマに絞ったツアーを企画する。 ・アンケートでは、個人旅行では体験できない「交流」への評価が高い傾向にあった。来年度は、交流会の時間を多めにするなどの工夫をしたい。 	

(4) フェア・出展

回数	開催日時	内容	出席者	相談者
1 東京	R5. 1. 15 (日) 10 時～	JOIN フェア	移住定住推進課	30 組 45 人 (概算)
2 東京	R5. 1. 29 (日) 13 時～	ナガノの トビラ	移住定住推進課 商工労政課	9 組 14 人
3 大阪	R5. 2. 23 (木) 14 時～	いなスタ	移住定住推進課	13 組 17 人

R4 合計参加者	52 組 76 人 (概算)
【総括】 <ul style="list-style-type: none"> ・いずれのフェアも安曇野ブースへの訪問者は大変多く、東京・大阪においても知名度や人気が高いことを実感した。 ・移住先は安曇野市と決めている方もいれば、まだ他の市町村と検討中の方、そこまで安曇野市を知らない方など様々であった。 	

(5) 出張個別相談

回数	開催日時	内容	出席者	備考
1 大阪	R5. 2. 22 (水)	出張個別相談	移住定住推進課	5 組 7 人

R4 合計参加者	5 組 7 人
【総括】 <ul style="list-style-type: none"> ・出張個別相談は費用対効果の面で課題があったため、フェアと組み合わせて実施した。予定していた 4 枠以上に申込があり、需要があることを実感した。 	

(6) おためし住宅

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
南棟	0	0	1	5	2	4	1	3	1	1	2	4	24
北棟	0	0	0	5	6	4	3	4	0	0	0	1	23
合計	0	0	1	10	8	8	4	7	1	1	2	5	47
人数	0	0	2	31	32	15	11	15	2	4	10	13	135
備考	※県が発令する感染警戒レベルにより運用変更 ※住宅設備の破損等が目立つためメンテナンス期間あり ・6/13 から利用再開 ・7/29 から新規予約停止 ・9/26 から新規予約再開 ・10/1～10/20 までメンテナンス期間 ・11/7 から新規予約停止 ・2/15 から新規予約再開												

R4 合計参加者	47 組 135 人
【総括】 ・令和7年度までは存続する方針であるが、冬場は凍結によるトラブルが発生しているため、設備の様子を見ながら利用を続けていきたい。	

(7) 通常の相談業務

期間	令和4年4月1日（金）～令和5年3月22日（水）まで
対応状況	相談件数：163件 【内訳】 電話：42件、メール10件、来庁111件

(8) オンライン個別移住相談

期間	令和4年4月1日（金）～令和5年3月22日（水）まで
利用者	相談件数：14件
備考	平日に1日4組まで対応。 10：00～、11：00～、14：00～、15：00～ 事前に質問内容を受け付けて回答する。

【総括】

- ・昨年と比較し、オンライン相談件数は減ったが、来庁による相談件数が増加した。コロナが落ち着き始め、直接相談に来る方が増えたためと思われる。

【昨年度との比較】

来庁による相談件数：+48 件（全体としては+30 件）
オンライン相談：-14 件

- ・オンライン相談者は、ある程度本気で安曇野市への移住を検討している方が多い印象で、支援制度の内容など具体的な質問も多かった。

(9) 宣伝・広告

媒体	内容	
移住プロモーション動画 (篠原氏出演)	移住大使・篠原氏が出演したプロモーション動画を作成。アウトドアや子育て環境の魅力を PR。	・ YOUTUBE で広告掲出。ショート版 6.8 万回再生 ・ みらい、ANC アリーナ、イオン豊科店、申告会場（本庁舎）で放映。
子育て情報誌 「HappyNote」 広告掲出	子育て世代をターゲットにした全国フリーペーパーに安曇野自然保育を掲載。	・ 16 万部発行 ・ 安曇野の資料請求 109 件
パンフレット 安曇野移住ガイドの発行	若年世代を主なターゲットに A3 の 2 折り冊子を作成。	・ 2,000 部作成 ・ 首都圏の移住フェアやセミナー、ふるさと回帰支援センター移住関連施設に設置。
広報あづみの特集 「移住定住で地域力アップ」	市の移住推進に対して市民の理解を促すため、12 月号巻頭 4 ページ掲載。	・ 38,000 部発行 ・ 市内全世帯に配布

【総括】

- ・プロモーション動画の YOUTUBE 広告は、若年世代の移住促進を図るため、首都圏・中京圏・近畿圏の 25～54 歳、移住、田舎暮らし、アウトドア、子育て等をターゲットトピックに掲出した。
- ・移住希望者をターゲットにしたプロモーションだけでなく、市民に対して移住推進への理解を促した。
- ・来年度は、移住に特化したマップの作成、合同フェアで使う PR 用品などの充実化を行うとともに、引き続き若年世代・子育て世代を重点ターゲットとする。

3 県・松本地域振興局主催事業への参加

回数	開催日時	内容	出席者	参加者	主催
1 東京	R4.10.15(土) 12時半～	セミナー 移住相談会	移住定住推進課職員	15組 33人	松本地域 振興局
2 OL	R4.11.23(水・祝) 13時半～	オンラインツアー	移住定住推進課職員 (有)細田農産	25人 (延べ数)	松本地域 振興局
3 愛知	R4.12.3(土) 13時半～	セミナー 自治体交流会	移住定住推進課職員	20人	県 (次世代サ ポート課)
4 OL	R5.2.10(金) 18時半～	地域とお酒	移住定住推進課職員 安曇野ブルワリー	28組 32人 (視聴者)	県 (信州暮ら し推進課)
5 愛知	R5.2.18(土) 13時半～	現地セミナー 移住相談会	移住定住推進課職員	17組 20人 (※)	県 (信州暮ら し推進課)

※安曇野市への相談(6組6人)

R4 合計参加者	130人
<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本地域振興局主催のセミナーは、漠然と信州や松本エリアに移住したいという方に各地域の紹介ができるため、他市を検討している人がブースを訪れるなどのメリットがあった。 ・県(次世代サポート課)主催の愛知セミナーは婚活も兼ねたものであったが、安曇野ブースへの訪問者は多く、婚活と移住相談を兼ねた層が一定数いることが確認できた。 ・県(信州暮らし推進課)主催のオンラインセミナーは、安曇野市の暮らしの魅力を様々なテーマにより紹介した。信州の移住希望者から選ばれるためにも、今後も連携を図りたい。 	

令和5年度 移住定住推進課 事業予定

● 重点テーマ

人口減少の抑制のため、若者・子育て世代をターゲットとした事業に取り組みます。

1 首都圏等での移住セミナー等

(1) 安曇野暮らしセミナー・相談会〈市主催〉

- ・東京会場（銀座 NAGANO）・・・ 6月14日（水）、9月16日（土）
- ・名古屋会場（県事務所）・・・ 7月21日（金）
- ・大阪会場（シティプラザ大阪）・・・12月9日（土）

➤ この他、東京会場（東京交通会館）の主催セミナー等を別途検討中

(2) 仮称・安曇野暮らしPR展（東京 KITTE）〈市主催〉

観光・農政等連携事業。安曇野の暮らしの魅力をPR・・・10月21日（土）

(3) 県主催セミナー

- ・大相談会（東京交通会館）・・・5月13日（土）
- ・信州で暮らす働くフェア（東京交通会館）・・・7月22日（土）
- ・松本地域振興局主催セミナー（東京交通会館）・・・10月7日（土）
- ・松本地域振興局主催オンラインセミナー（銀座 NAGANO）・・・11月12日（日）
- ・県次世代サポート課主催 婚活移住セミナー（名古屋会場）・・・12月予定

(4) その他合同セミナー

- ・おいでやいなか暮らしフェア（大阪 OMM ビル）・・・7月22日（土）
- ・ふるさと回帰フェア（東京国際フォーラム）・・・9月17日（日）

2 オンライン移住セミナー等〈市主催〉

(1) オンライン移住セミナー

本年度は10回（10月・3月を除く毎月）の開催予定。

仕事、不動産、子育てなど個別テーマを決めて開催予定のため、協議会の皆様の協力をお願いします。セミナーは YOUTUBE の見逃し配信を行います。

➤ 次回の予定：4/25(テーマ：春・安曇野のおすすめスポット＋移住体験談)

(2) オンライン個別移住相談

対応可能時間：平日 10時から 16時の間で1日4組まで対応。

3 移住交流ツアー

(1) 空き家の利活用に関心がある方を対象にしたツアー・・・5月20日（土）、21日（日）

明科地域の空き家を散策しながら見学。交流会・市内の生活拠点の見学。

(2) 子育て世代を対象にしたツアー・・・10月9日（月・祝）、10日（火）

こども園で自然保育体験。先輩移住者との交流会も計画。

◇ セミナー・相談会・ツアーのいずれも、生活環境、住宅、仕事など、内容によって、協議会の皆様の出席など協力をお願いします。

4 おためし住宅

通年受入可能（受入不可：12月29日～翌年1月4日）

安曇野市三郷小倉地籍において2棟を貸出し

利用料：無料

利用可能日数：7日間

利用条件：県外に住所を有して安曇野市に移住を希望していること。

安曇野暮らし支援協議会のHPから「移住希望者登録フォーム」に登録があること。

5 安曇野移住支援ネットワーク（仮称）の設置

安曇野市への移住相談は、市の窓口（移住定住推進課）だけでなく、さまざまな立場の方（宿泊施設、区など）が担っている状況です。現状ではこのような皆さんとのつながりが少ない状況であることから、移住に関わる情報や課題を共有することで、相談窓口の強化、地域コミュニティへの理解を進めることが狙いです。本年度は、各種相談窓口・パンフレット・相談時に役立つ情報の紹介、地域コミュニティとの係わりなどについて懇談し、情報共有を行う予定です。

（1）定員と募集

10人程度（募集方法などは検討中）

（2）暮らし支援協議会との棲み分け

「移住支援ネットワーク」は、実質的に移住希望者の相談を担っている皆さん（宿泊事業者、区等）を中心に連携し、移住相談の充実化を図ります。「暮らし支援協議会」は、専門的な相談や事業を担う各組織（県、職安、商工会、NPO等）の集まりであり、主に各団体の事業実施のための情報交換、セミナー等への派遣要請、意見聴取を中心とした内容となります。

6 その他

（1）あづみの移住大使

安曇野の暮らしの魅力を広くPRするため、篠原信一さんを「あづみの移住大使」として委嘱。本年度は、東京KITTEのPRイベントなどに出演予定。

（2）その他プロモーション

- ・移住に関わるパンフレット・マップ、イベント時のPRグッズなどの製作。
- ・メディアへの情報掲載（広告等）
- ・「安曇野へ移住！」ホームページの改修

（3）若者回帰事業

進学・就職などを機に県外に定住する可能性がある若者世代に対し、地元回帰を呼びかけます。

- ・「二十歳の集い」対象者に向けた情報発信

上記対象者の通知文に就職情報などを掲載したメールマガジンの登録を促すチラシを配布します。